

別紙 1

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

当事業所では、環境 ISO14001：2015 年版を取得し、環境保全活動に関する方針等については、環境マニュアルの中「環境方針」において、環境管理システムを運用し、適切なリスクマネジメントを行いながら以下の活動を推進し、持続可能な社会への貢献を目指すこと等を宣言している。

- ①社会を支える機能性材料や車載用 2 次電池の原料となる硫酸ニッケルやプリカーサー等の製品を安定供給することによって、省エネルギー社会へ貢献する。
- ②資源の有効利用のため中間品から酸化スカンジウム等の有価金属回収を推進し、産業廃棄物の発生量削減を図る。
- ③温室効果ガス（GHG）排出量の削減を図るため、燃料・電力等の適正管理を行うとともに、大気・排水中への環境汚染の予防、環境負荷の低減を図る。
- ④環境関連法規制、協定及びその他の要求事項等を遵守し、地域社会との積極的コミュニケーションを通じ、地域との相互理解を深める。
- ⑤環境目標を設定し、達成のための活動を推進し、その達成度を定期的にレビューし、環境管理システムを継続的に改善する。

また当社では、統合報告書を毎年発行し、環境負荷、パフォーマンス等を公表している。

1-2 環境保全活動に関する組織体制

当事業所では、公害防止管理組織、並びに ISO14001：2015 年版に基づいた委員会（REQ0 委員会）の設置・運営をもって、環境保全活動に関する組織体制としている。

環境に係る異常事態への対応として、連絡体制については、緊急事態対応の規程に基づいた内部・外部、緊急／異常事態発生時報告ルートを示し、社員に周知・教育を行っている。

別紙 2

2 環境保全活動の実施状況等

項 目	取組結果	今後の取組計画
騒音、振動、悪臭	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の構内巡視による設備点検、薬液漏洩の有無の確認を実施 2. 騒音については環境保全協定に基づき定期測定、報告を実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 継続した取組
廃棄物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物分別を徹底し、紙、廃油等、再生可能資源への利用による廃棄物削減 2. 硫酸ニッケルプラント、プリカーサープラント、スカンジウムプラント等で新規に発生する廃棄物の性状等の確認を強化し、法令違反防止対策を実施 3. 亜鉛製錬設備解体では建設リサイクル法に基づき適切に廃棄物およびリサイクル可能な特定建設資材に分別し廃棄物を削減 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 継続した取組
自動車公害対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社有車の一部にハイブリット車導入 2. 構内におけるアイドリングストップの徹底 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 維持管理の継続 2. 継続した取組
化学物質対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 旧亜鉛製錬設備の計画的撤去により有害物質の地下浸透リスクを低減。タンク、配管等からの有害物質漏えい点検を継続実施 2. 硫酸ニッケル、プリカーサープラントでの危険物事故防止対策の実行、管理手順教育・訓練等実施 3. PRTR法に伴う報告を経済産業省と兵庫県に実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続した取組 2. 継続した取組 3. PRTR 報告に係る傾向管理と削減取組の継続を行う
エネルギー対策 (地球温暖化対策)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再生可能エネルギー由来の電力を購入、利用を継続 (100%再エネ由来に置換) 2. 計画的なLED照明の導入、設備更新時のトップランナー設備の導入検討を継続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 再生エネ由来の電力を継続購入 2. 照明のLED化等、省エネ対策の継続

緑化対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既設緑地の維持管理 2. 新規プリカーサープラント建設および旧亜鉛設備解体に伴う緑地計画に基づく緑地の維持・整備 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 維持管理の継続
グリーン購入対策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使用場所を考慮した上での再生品の購入 2. 再生可能エネルギー由来の電力を継続購入（100%再エネ由来に置換） 3. 社有車の一部にハイブリット車導入 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続した取組 2. 再エネ由来の電力を継続購入 3. 維持管理の継続
環境マネジメントシステム	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年12月にISO14001:2015年版外部再認証審査を受け、合格。 2. トップによるマネジメントレビューを実施、継続して環境リスク管理強化や改善を実行中。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ISO認証の維持継続 2. 環境影響を考慮し適切な優先順位を付けた改善の実施、継続
環境教育	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和7年6月2日、トップによる全社員への環境教育として、循環経済・カーボンニュートラル・地球環境保全などの環境に関する当社重要課題と取組みの説明を実施した。 2. 新任者、転入者発生時に導入教育として環境教育を実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 継続した取組
地域社会への参画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職場毎に分担し、当社隣接海岸の清掃を毎月実施 2. 地域在住の希望者に対して当社グラウンドの開放 (自然環境の地域への提供) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 継続した取組
環境コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和6年度版サステナビリティレポート（統合報告書）発行による環境情報の公開 2. 兵庫県環境保全管理者協会活動等への参加による環境情報の収集と意見交換 3. 顧客からの環境影響調査に係る回答 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境情報公開の継続 2, 3. 継続した取組